

徳島の高校生の進路等に関する意識調査研究

政策創造部統計戦略課

概要

本研究は、若者のニーズに応じた施策立案を行うために必要だと考えられる若者の意識の把握を目的に県内高校 2 年生を対象に意識調査を実施したものである。また、本調査では意識調査としてのオンライン調査の実用性を検証するために、インターネット上の「徳島県電子申請・届出システム」を活用して調査を実施した。

調査結果の分析の結果、「現在住んでいる市町村に定住したい」と考える生徒は約半数であった。就職や県内大学への進学を希望している生徒や県東地域在住の生徒でその割合が比較的高い。しかし、県外大学への進学を希望している生徒や県西・県南地域在住の生徒は現在住んでいる地域での定住には消極的な傾向が確認された。

また、自由記述の回答を分析した結果、徳島の良い点としては「自然」をあげる数が突出していた。一方で、徳島の悪い点としては「交通」に関連する要素をあげる回答が多いことが分かった。

オンライン調査の実用性については、調査が安価で実施できることや記述式の回答率が高い等のメリットが確認された。しかし、回収率向上のための取組みが紙媒体の調査以上に必要だと考えられる等の課題も確認された。

1 はじめに

本研究では、若者が将来の進路や徳島についてどのように考えているかを調査し、徳島県内の若者の意識を明らかにすることを目的としている。

国勢調査（総務省統計局）によると、平成 22 年から平成 27 年の 5 年間で人口が 29,758 人減少している。その中でも、若者の人口減は社会減によるところが大きく、住民基本台帳人口移動報告（総務省統計局）によると、平成 23 年から平成 27 年の 5 年間の 20～24 歳の転出超過数は 4,961 人となっており、全年齢での転出超過数 7,433 人の 6 割を超える数となっている。

社会の活力を維持するためには、こうした若者人口の流出を抑えることが必要不可欠である。そのためには、曖昧な感覚ではなく、若者が「どういう職業に就きたいか」や「徳島についてどういうイメージをもっているか」といった意識を把握し、適切な施策・情報発信を行う必要がある。このことから、進路について考える時期にあるだろう高校 2 年生を対象にした意識調査を行い、その分析を行った。

また、本研究に限らず、県民のニーズが多様化する中、そうした意識を把握するための県民に対する定期的な意識調査は有効であると思われるが、既存の紙媒体の調査票を用い

た方法では、調査票の印刷や回収、データエントリーに多くの財源と人員を必要とするため、限られた財源と人員の中での実施は容易ではない。

統計調査の現場においては、国勢調査等でインターネットを利用したオンライン調査の拡大が図られている。本調査ではこうした現状を踏まえ、今後の県民の意識把握手法としての実用性や課題を検証するため、インターネット上の「徳島県電子申請・届出システム」を活用して調査を実施した。

2 研究過程

研究日程

平成 28 年 4 月～8 月 設問作成・調査実施に向けた協議，調査ページ作成

4 月 26 日

南部総合県民局経営企画部<美波>，西部総合県民局企画振興部<美馬>，県立総合大学校本部と協議。

7 月 8 日／8 月 1 日／8 月 12 日／9 月 8 日

徳島大学総合科学部社会総合科学科 豊田哲也 教授と協議。

7 月 19 日／7 月 20 日

県教育委員会学校教育課，経営戦略部総務課と調査実施・通知について協議。

9 月～10 月中旬 調査の実施

9 月 9 日

各高等学校にチラシを送付。

生徒への配布は 9 月 16 日頃を目処に実施していただいた。

9 月 27 日

県内各高等学校に改めて，回答の呼びかけを依頼。

9 月 30 日までとしていた回答期間を 10 月 14 日まで延長。

10 月 14 日

回答期間終了。

10 月中旬～12 月 データクリーニング，分析

平成 29 年 1 月～2 月 結果報告・還元

1 月 13 日

徳島大学 豊田教授に結果について報告。

本報告の結果，こうした調査は高校生だけでなく大学生に対して実施しても有用な結果が得られるだろうということで，徳島大学 COC プラス推進本部の調査実施に当課が協力する形で，2 月 2 日から 2 月 19 日にかけて徳島大学の一部の講義を受講

している生徒に対して同様の意識調査を実施している。

1月20日

南部総合県民局経営企画部<美波>，県立総合大学校本部に結果について報告。

1月24日

西部総合県民局企画振興部<美馬>に結果について報告。

2月17日

県教育委員会学校教育課，経営戦略部総務課に結果について報告。

2月 本報告書の執筆・提出

「とくしま高校生意識調査」について

対象：県内高校2年生（約6,700人）

回答数：432

回答期間：平成28年9月10日～10月14日

調査内容：対象の基本的な属性，希望する仕事や定住先，その他様々な意識について等。

具体的な設問については別紙参考資料参照。

なお，設問数は必須回答の択一式25問，任意回答の択一式1問，任意回答の記述式4問の全30問。

回答方法：各高校より配布されるチラシ記載のURLやQRコードから「徳島県電子申請・届出システム」内の回答ページにアクセスし，回答を行う。

実施概要：県内高校に郵送等で回答ページのURL等が記載されたチラシを送付。そのチラシを2年生に配布していただいた。生徒への配布については，県教育委員会学校教育課や経営戦略部総務課の協力を得て，各校に依頼した。

3 回答結果

432 人から回答を得た。回答の単純集計結果の一覧は、別紙参考資料参照。

なお、クロス集計を行った際の有意差の検定は χ^2 検定により有意水準 5%で考えるものとする。

※ χ^2 検定（カイ 2 乗検定）

χ^2 分布（カイ 2 乗分布）を使い、比較したい事象の頻度の検定を行うもの。

本論の場合は、グラフ右下に有意確率 p を記載しているが、これが 5% (0.05) を下回るにより「比較した対象に差がない」という仮説を棄却し、比較した対象に差があるという結論を得ている。

例：図 1 の場合、有意確率 $p < 0.01$ と 5%以下であるので、「卒業後の進路について、男と女に差はある」という結論を得る。

a.基本属性について

回答者の性別は、男性が 210 人 (48.6%)、女性が 222 人 (51.4%) となった。

徳島県での居住歴は、「生まれた時から」が 388 人 (89.8%) と最も多く、次いで「小学校入学前から」が 23 人 (5.3%) となっており、徳島県に長期間住んでいる生徒が非常に多い。

きょうだい数については、兄弟の数と弟妹の数を別々に尋ねた。「きょうだい数」は本論では本人を除いた兄弟数と弟妹数を合わせた数とする。「3 人以上」と回答した生徒の兄弟や弟妹の数が 3 人であると仮定すると、平均人数は兄弟が 0.80 人、弟妹が 0.73 人となり、回答者のきょうだい数は約 1.53 人となっている。

b.卒業後の進路について

卒業後の希望進路については、「進学（大学，短大等）」が 269 人 (62.3%)、「進学（専修学校，専門学校等）」が 78 人 (18.1%)、「就職」が 77 人 (17.8%)、「その他」が 8 人 (1.9%) となり、大学等への進学を希望している生徒が大半となった。また、大学や専修学校への進学を希望している人の進学希望地については、「徳島県内」への進学を希望している生徒が 93 人 (26.8%)、「徳島県外」への進学を希望している人が 208 人 (59.9%)、「わからない」と回答した人が 46 人 (13.3%) となっている。

また、男女別の進路希望をあらわしたのが図 1 であるが、男性に比べて女性は進学希望の割合が大きいことが分かる。

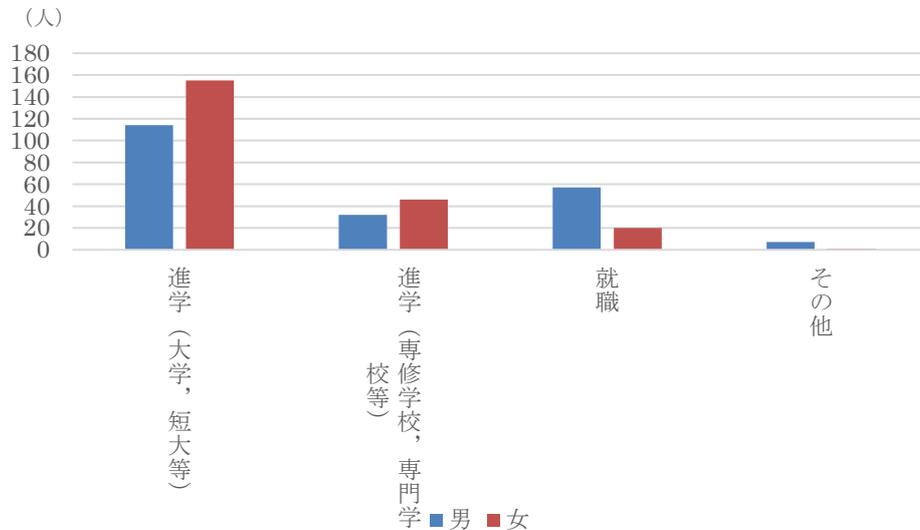


図1 男女別 卒業後進路

($p < 0.01$)

c. 将来の仕事と働き方について

一 仕事について

将来希望している仕事について尋ねたところ、図2のとおりになった。

「分からない」や「その他」以外では、「医療関係職」が78人(18.1%)と最も多く、次いで「教師・教育関係職」が40人(9.3%)、「公務員(教師・警察官除く)」が37人(8.6%)という結果となった。大学等の進学希望者の希望学科をみると、「教育系」が50人(18.6%)、「保健・衛生・看護系」が34人(12.6%)、「医歯薬系」が23人(8.6%)と多くを占めているが、こうした職業希望が影響していると思われる。

なお、全選択肢中「分からない」が80人(18.5%)と最も多く、未だ将来の具体的な展望がみえていない生徒が多くいることも窺えた。

この結果を男女別でみると、図3のとおりになった。

女性は「医療関係職」が62人(27.9%)、「教育関連職」が27人(12.2%)、「保育関連職」が23人(10.4%)といった仕事に希望が集中している。

一方、男性は「公務員」が27人(12.9%)と最も多いが、女性に比べると他の仕事にも希望が分散していることがわかる。また、「分からない」が51人(24.3%)と女性と比べて多い結果となっている。

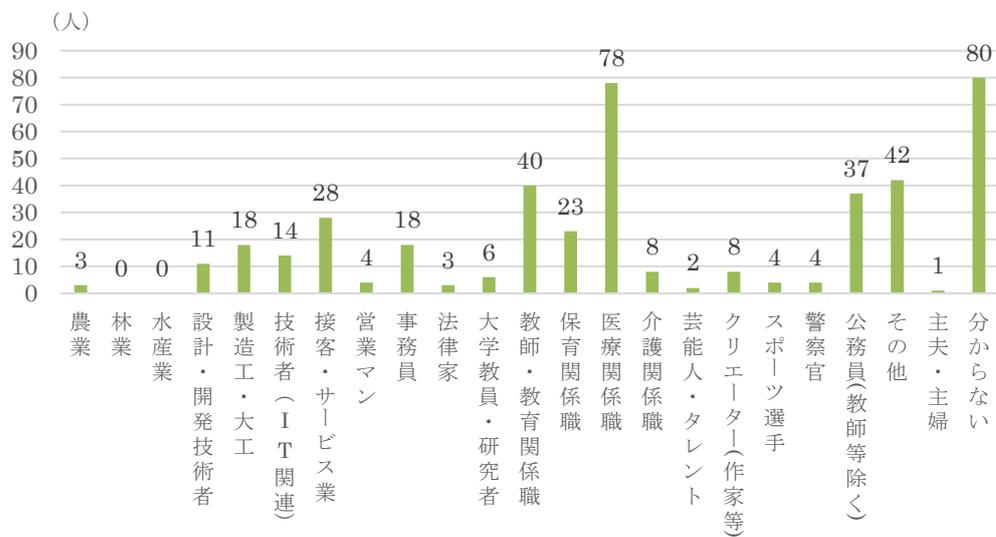


図2 希望の仕事

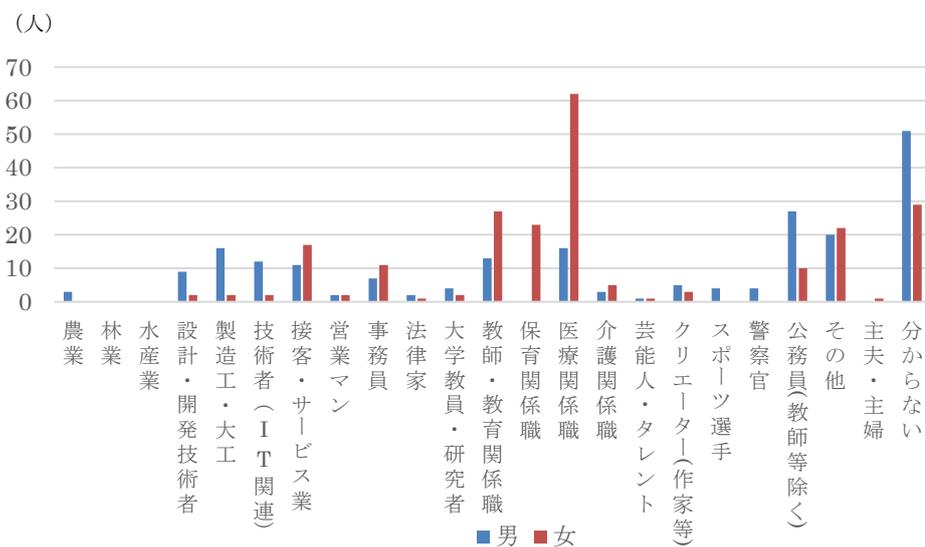


図3 男女別 希望の仕事

($p < 0.01$)

一働き方について

将来希望する働き方について尋ねたところ、図4のようになった。

「専門職（医師・教師等）」155人（35.9%）、「公務員」109人（25.2%）と将来希望する仕事で多くを占めている「医療関係職」や「教師・教育関係職」に対応する働き方が多い結果となった。

前述の図2では「分からない」を選択した生徒が最も多い結果となっているが、希望の働き方によって希望の職業が「分からない」と考える割合がどの程度変化するかをあらわしたのが表1である。この表より「大企業の正社員」や「中小企業の正社員」を選んだ生徒では「分からない」を選択する生徒が3割を超えていることが分かり、「やりたい仕事の具体的なイメージはあまりよく分からないが、とりあえず正社員になりたい」という安定志向の考えの生徒が一定数いるのではないだろうかということが窺えた。

また、就職したい具体的な企業名や仕事の種類を記述で回答する設問を設けたが、「大企業の正社員」や「中小企業の正社員」を希望する人で具体的な企業名をあげていた生徒数は5人だった。

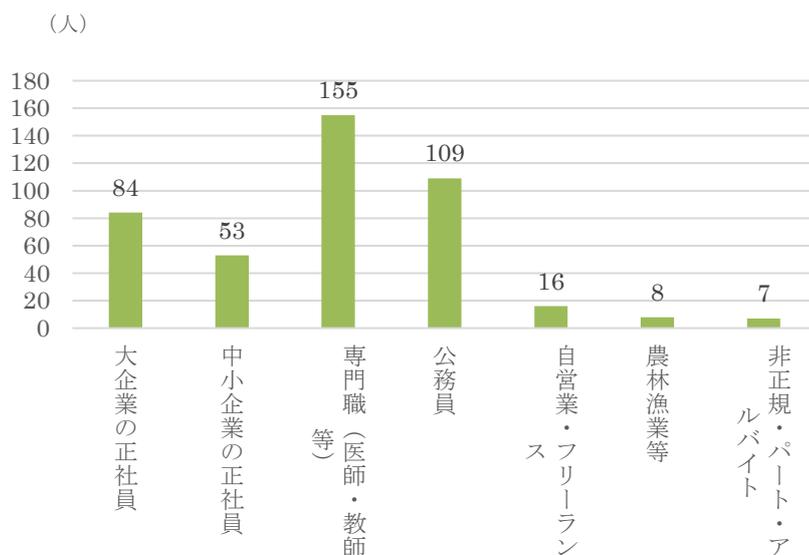


図4 希望の働き方（形態）

表1 希望の働き方別 希望の職業で「分からない」を選択した人数

	(人, %)						
	大企業の正社員	中小企業の正社員	専門職(医師・教師等)	公務員	自営業・フリーランス	農林漁業等	非正規・パート・アルバイト
総数	84	53	155	109	16	8	7
希望の職業で「分からない」	27	17	14	17	2	0	3
割合	32.1	32.1	9.0	15.6	12.5	0.0	42.9

d.定住に関する意識について

定住に関する意識について、将来の現住市町村への定住希望を尋ねたところ図 5 のようになった。

現在の市町村への定住希望について、「必ず定住したい」「できれば定住したい」といった積極的な回答が 208 人 (48.1%)、「あまり定住したくない」「定住したくない」といった消極的な回答が 224 人 (51.9%) とおおよそ半数ずつとなっている。

さらに、定住の希望先の選択が、「都会に住みたい」「田舎に住みたい」といった街の規模感に影響を受けるのか、「親の近くに住みたい」「親から離れて住みたい」等の理由から徳島との距離に影響を受けるのかといった事を調べるために、定住希望先について都市規模とエリアに分けて尋ねた。その結果がそれぞれ図 6, 図 7 である。

定住したい都市規模について、「大都市」「中枢都市」「地方都市」「町村・農山漁村」に分けて尋ねたが、「大都市」「中枢都市」「地方都市」についてはほぼ同数の結果が得られた一方で、「町村・農山漁村」は 25 人 (5.8%) と比較的少ない結果となった。なお、徳島県内の市町村で該当すると思われる「地方都市・小都市」及び「町村・農山漁村」を合わせると 144 人 (33.3%) となった。

定住したいエリアについて、「近畿地方, 中国・四国地方」が 167 人 (38.7%) と最も多く、次いで「徳島県内」139 人 (32.2%) という結果になった。なお、ここでの「近畿地方, 中国・四国地方」に徳島県は含めないものとしている。徳島県以外での定住を望んでいる生徒（「どこでも」除く）は、222 人 (51.4%) となっている。

男女別に分類した場合、現住市町村への定住希望及び都市規模に対する希望については回答結果に有意な差はみられなかった。(それぞれ $p=0.0871$, $p=0.204$)

男女において有意差がみられたエリアに対する希望についてみたのが図 8 である。

女性は、男性に比べると「徳島県内」に定住したいとする割合が低く、「近畿地方, 中国・四国地方」を希望する割合が多い。

また、男性は「どこでも」が 44 人 (21.0%) と女性に比べて多かった。

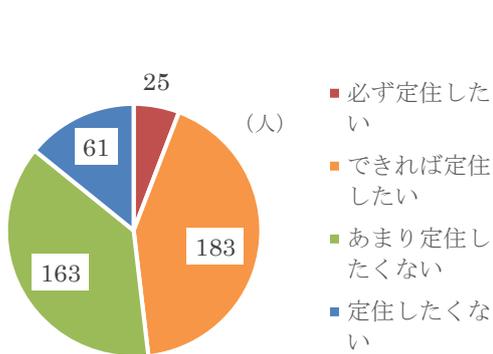


図5 現住市町村への定住希望

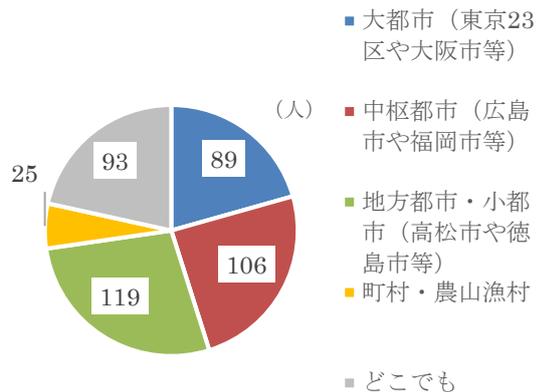


図6 都市規模に対する定住希望

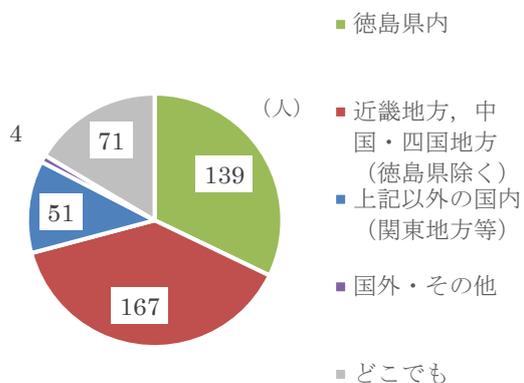


図7 エリアに対する定住希望

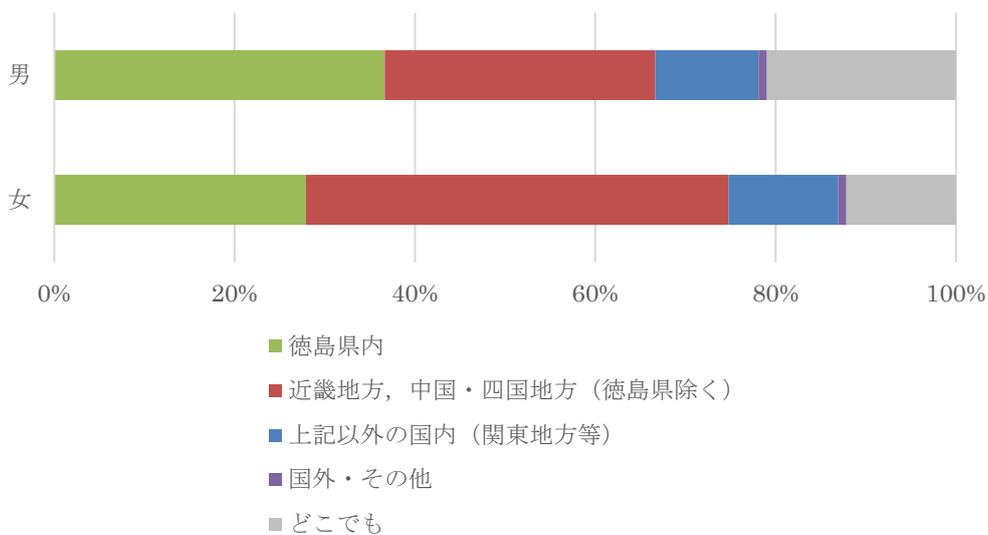


図8 男女別 エリアに対する定住希望

($p < 0.01$)

一進路希望別にみた定住に関する意識について

エリアに対する定住希望を卒業後の進路別に分類したのが図9である。

「進学（大学，短大等）」「進学（専修学校，専門学校等）」を希望している生徒の内，徳島県外の地域を選択した人は204人（58.8%）と「就職」を希望する生徒に比べて県外を希望する割合が非常に大きいことがわかる。

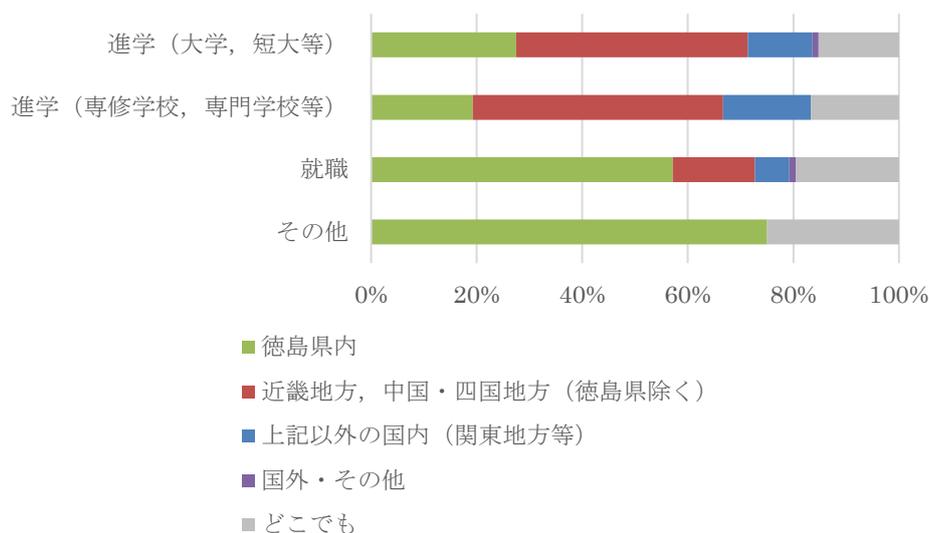


図9 希望進路別 エリアに対する定住希望 (p<0.01)

また，男女別かつ希望進路別に定住希望をみたのが表2である。なお，この表では「進学（大学，短大等）」「進学（専修学校，専門学校等）」はまとめて「進学」とし，「その他」については除外している。

表2より，特に進学を希望する女性は，約半数が近畿地方，中国・四国地方を希望していることが分かり，多くの若者女性が進学に伴い県外へと流出してしまう可能性が窺える。

表2 男女別及び希望進路別 エリアに対する定住希望

(人)

			エリアに対する定住希望					計
			徳島県内	近畿地方, 中国・四国地方	上記以外の国内 (関東地方等)	国外・その他	どこでも	
性別× 希望進路	男	進学	40	55	21	1	29	146
		就職	31	8	3	1	14	57
	女	進学	49	100	25	2	25	201
		就職	13	4	2	0	1	20
	計		133	167	51	4	69	424

希望進学地別にその卒業後，就職をする際に現在住んでいる市町村に住みたいかどうかをみたのが図10である。

大学等で県外に進学したいと考えている生徒は，現住市町村への定住について，「定住したい」「できれば定住したい」といった積極的な回答が60人（28.8%）と，県内に進学したい生徒が積極的な回答をした割合（66.3%，165人）に比べて半分以下となった。

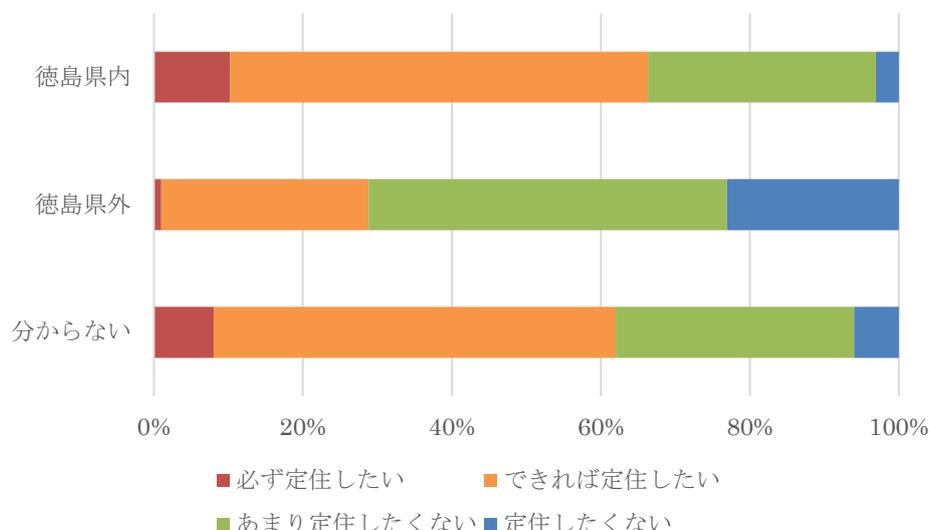


図 10 進学希望地別 現住市町村への定住希望 (p<0.01)

一地域別にみた定住に関する意識について

定住に関する回答結果を、回答者の現住地により徳島市周辺（徳島市，鳴門市，小松島市，阿南市，吉野川市，阿波市，勝浦町，上勝町，佐那河内村，石井町，神山町，松茂町，北島町，藍住町，板野町，上板町の県東部を中心とした 16 市町村，以下県東地域）とそれ以外の市町（以下県西・県南地域）に分けて結果を分析した。なお，回答数はそれぞれ，県東地域が 216，県西・県南地域が 216 となっている。

現住市町村への定住希望を地域別でみると図 11 のようになる。

積極的な回答数は，県東地域では 130 人（60.2%）となり，県西・県南地域では 78 人（36.1%）となった。反対に消極的な回答数は，県東地域では 86 人（39.8%）となり，県西・県南地域では 138 人（63.9%）となった。二地域で比較すると県東地域に住んでいる生徒は県西・県南地域に住んでいる生徒と比べて現住市町村での定住に積極的な回答が多い結果となった。

都市規模についての希望を地域別でみると図 12 のようになる。

県西・県南地域は，「中枢都市」「大都市」を希望する人が合わせて 116 人（53.7%）となり，県東地域と比べていわゆる都会を希望する人の割合が多い。

エリアについての希望を地域別でみると図 13 のようになる。

県西・県南地域は，「徳島県」が 46 人（21.3%）と県東地域に比べて割合が小さく，「近畿地方，中国・四国地方」は 106 人（49.1%）と県東地域に比べて割合が大きかった。

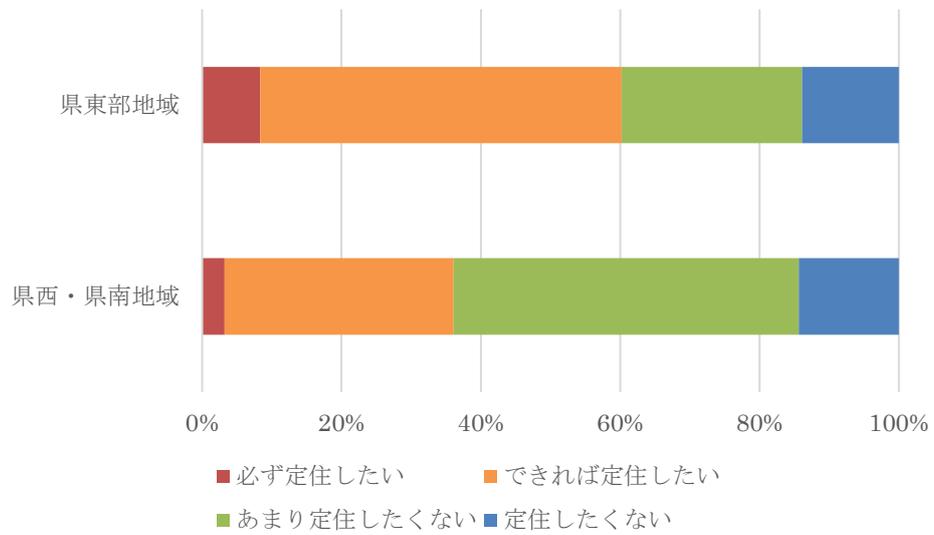


図 11 地域別 現住市町村への定住希望 (p<0.01)

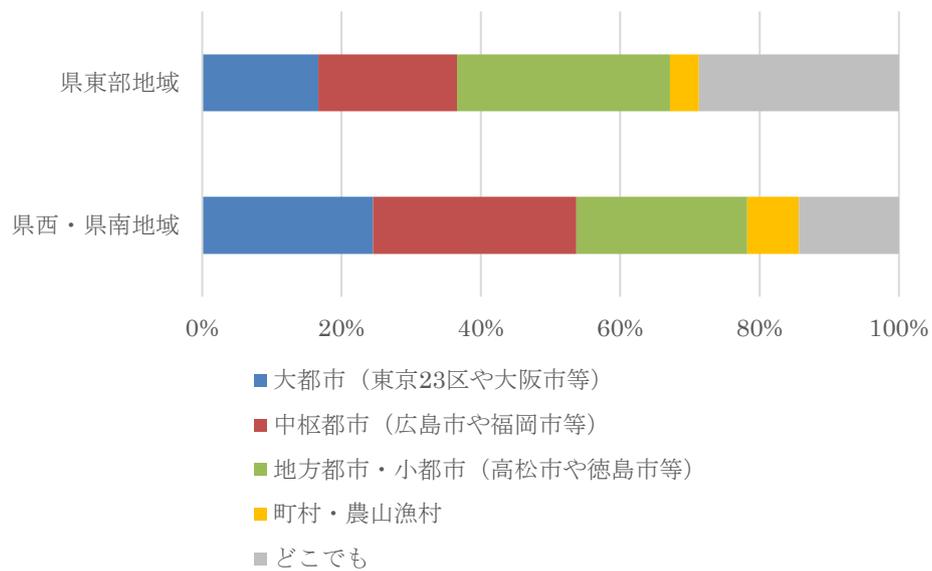


図 12 地域別 都市規模に対する定住希望 (p<0.01)

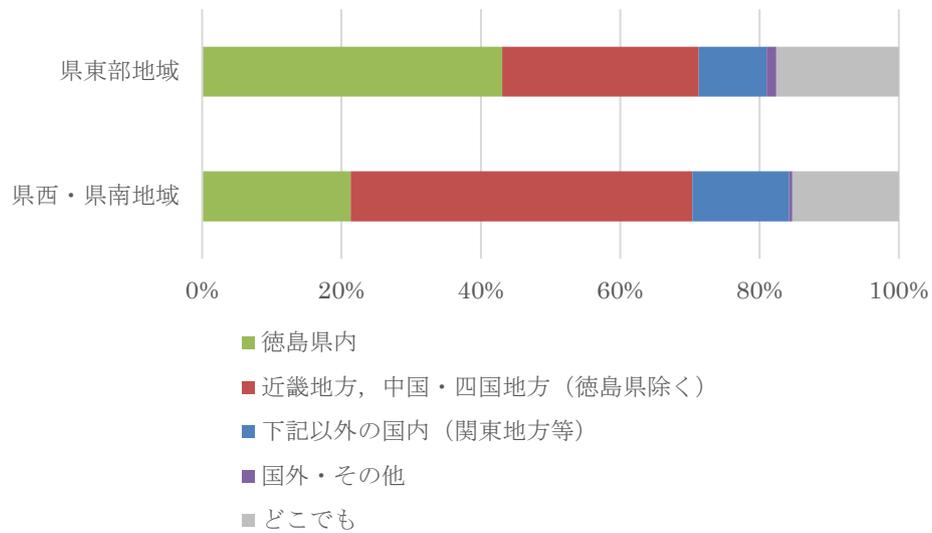


図 13 地域別 エリアに対する定住希望 (p<0.01)

一進路選択で意識することからみた定住に関する意識について

進路選択において重視することについて尋ねた結果が図 14 である。

「仕事のやりがいや生きがい」が 142 人 (32.9%), 「安定した仕事や生活」が 132 人 (30.6%) と仕事に関する意識が多くを占めた。

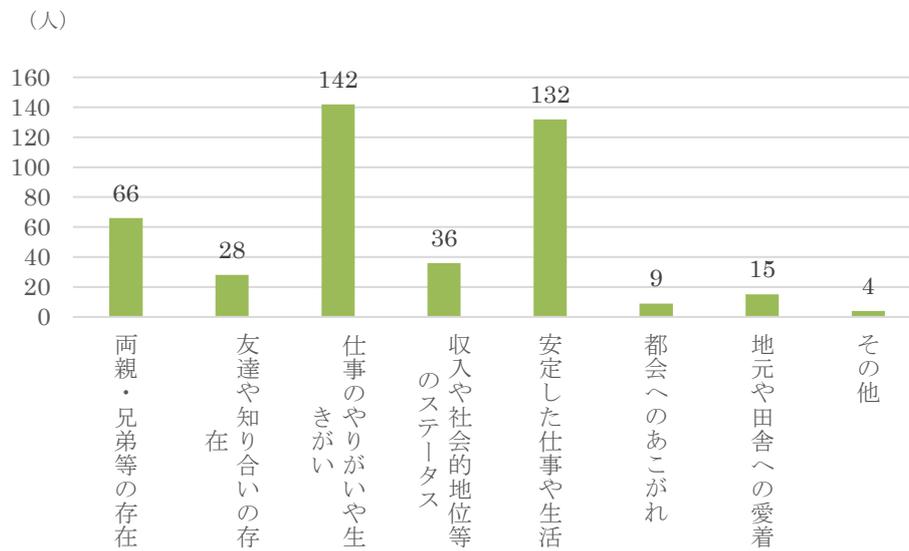


図 14 進路選択で意識すること

この意識別に定住したいエリアをみたのが図 15 である。

「両親・兄弟等の存在」や「友達や知り合いの存在」を選択した生徒でエリアに対する定住希望で「徳島県」を選択する人が 42 人（44.6%）となるが、「仕事のやりがいや生きがい」「収入や社会的地位等のステータス」「安定した仕事や生活」を選んだ生徒で「徳島県」を選択した生徒は 83 人（26.8%）となり、仕事を中心に進路を考えると徳島県を選ぶ生徒が少なくなる傾向があった。

このことに関連して、仕事について考える際に、余裕のある仕事を求めるか高い給料を求めるかを調べるために、厳しい仕事をしてでも高い給料を求めたいと思うかを調べた結果が図 16 である。なお、この図では回答数の関係で、「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」はまとめて「そう思わない」としている。

「そう思わない」と考える生徒は、「徳島県内」に定住を希望する生徒が 46 人（38.0%）と、「そう思う」「ある程度そう思う」と答えた生徒と比べて「徳島県内」を希望する割合が大きく、県外を希望する割合が小さい結果となった。

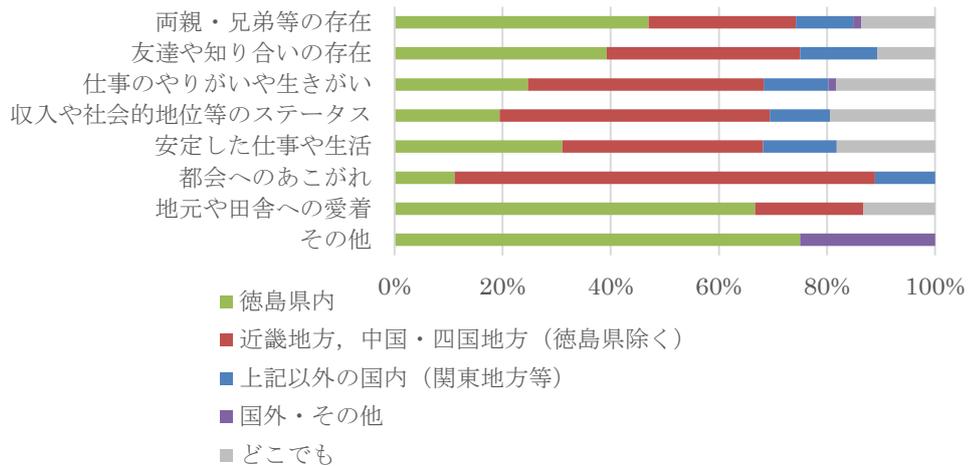


図 15 進路選択での意識別 エリアに対する定住希望 (p<0.01)

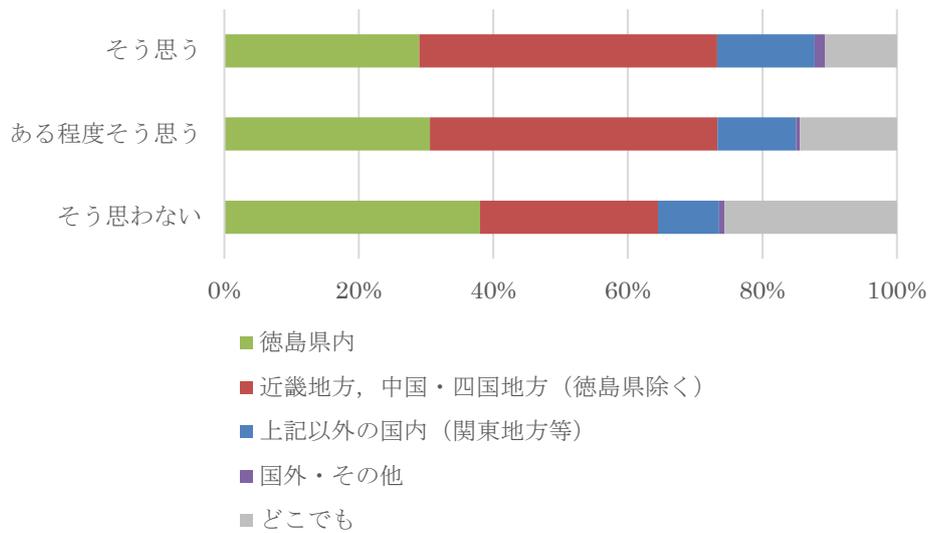


図 16 高収入志向別 エリアに対する定住希望 (p=0.01)

一満足度からみた定住に関する意識について

現在の生活の満足度について尋ねた結果が図 17 である。

「十分満足している」「ある程度満足している」を合わせると 315 人 (72.9%) になり、多くの生徒が現在の生活に満足していることが分かる。

現在の満足度別に現住市町村への定住希望をみたのが図 18 である。この図では、「やや不満である」「不満である」を合わせて「不満である」としている。この図から、満足度が高いほど定住に前向きであり、満足度が低いほど定住に消極的になることが確認できる。

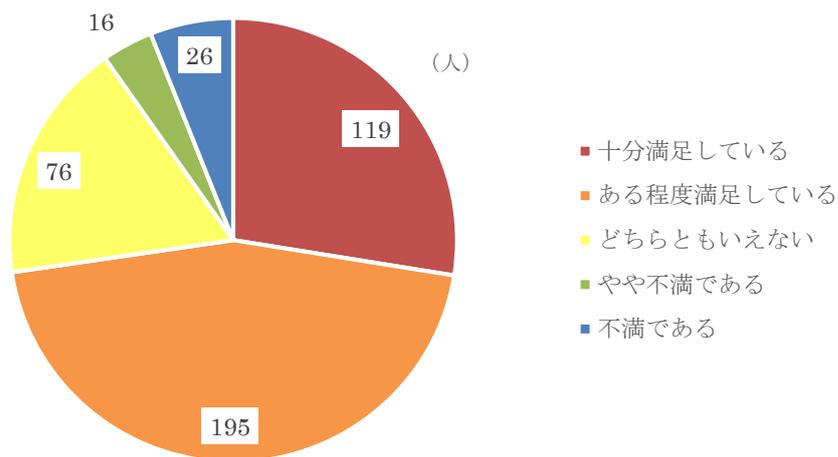


図 17 現在の生活の満足度

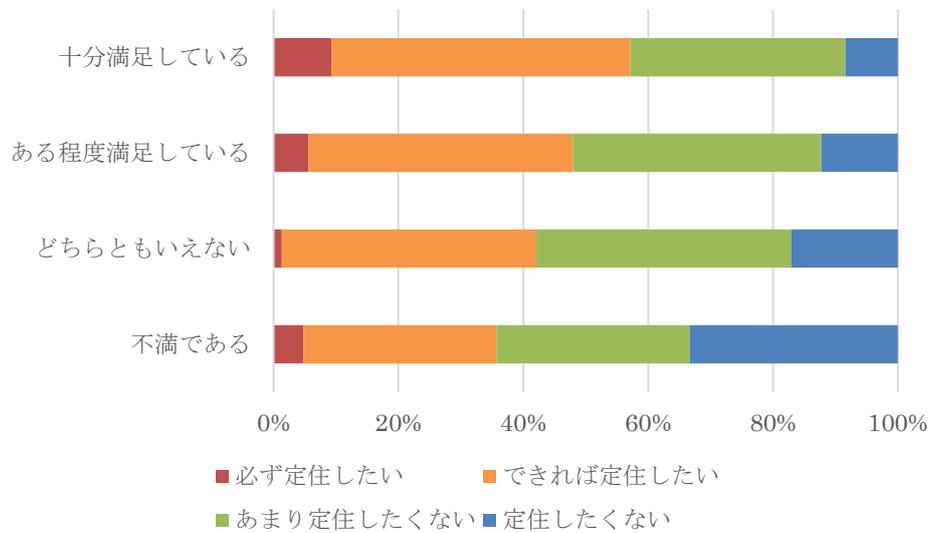


図 18 満足度別 現住市町村への定住希望 (p<0.01)

e.結婚と子どもに対する意識について

将来、結婚をしたいかを尋ねた結果が図 19 である。

「そう思う」と答えた生徒は 261 人 (60.4%) であり、大半が結婚を希望していることが分かる。なお、男女で有意差はみられなかった (p=0.63)

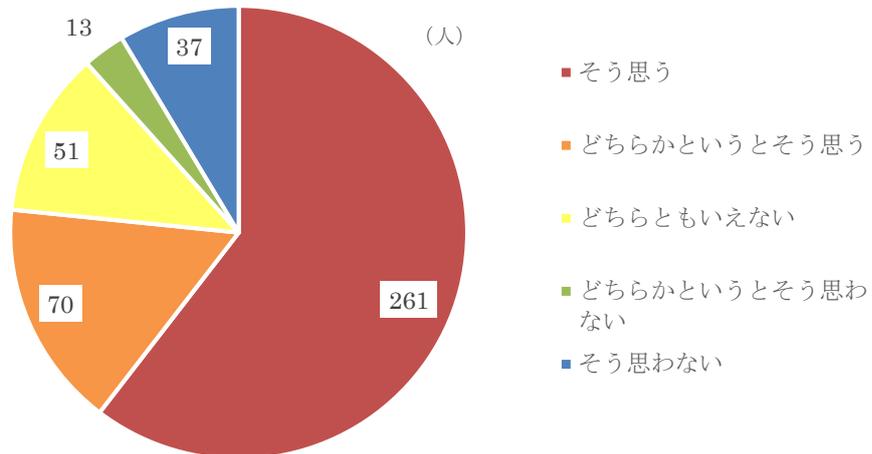


図 19 結婚について

結婚希望と希望の子どもの数についてまとめたものが表3である。

結婚希望について「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した中で、希望の子どもの数を「2人」「3人以上」と回答した生徒は273人（82.5%）と結婚をしたいと考える多くの生徒が将来2人以上の子どもをもちたいと考えている。

表3 結婚の希望の有無と希望の子どもの人数

(人)

		結婚したいと思うか					計
		そう思う	どちらかという 思う	どちらとも いえない	どちらかという そう思わない	そう思わない	
希望の子 どもの人数	3人以上	72	5	5	1	2	85
	2人	153	43	20	2	1	219
	1人	17	4	1	0	0	22
	もちたくない	2	0	2	5	19	28
	わからない	17	18	23	5	15	78
	計	261	70	51	13	37	432

また、現在のきょうだい数と希望している子どもの数の関係を表したのが図20である。

「きょうだい0人」の生徒についてみると、希望の子どもの数が「1人」が7人（15.9%）となり、他のきょうだい数の生徒と比べるとその割合が多い。

また、「きょうだい1人」の場合についてみた希望の子どもの数「2人」、「きょうだい2人」の場合についてみた希望の子どもの数「3人以上」についても同様のことがいえる。

「きょうだい3人以上」の場合はこうした傾向はみられないが、現在のきょうだい数が将来の希望の子どもの数に一定の影響を与える可能性が窺える。

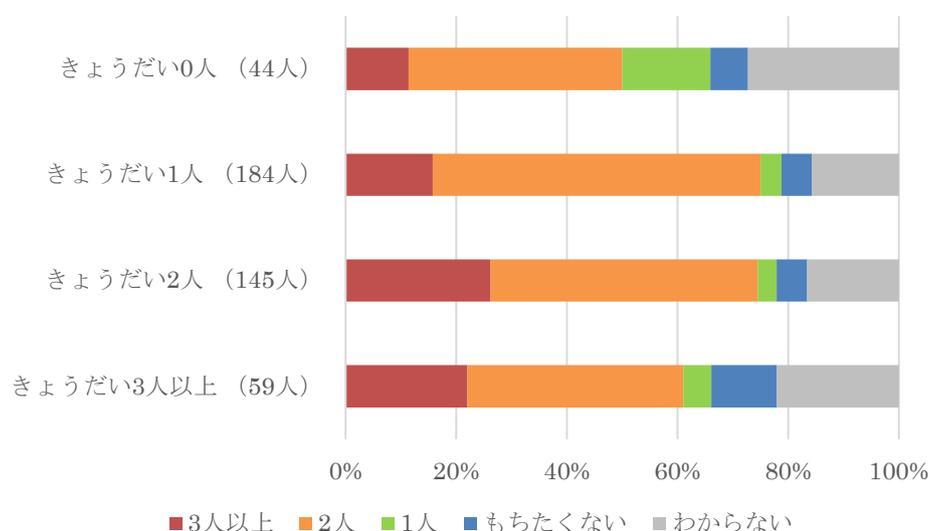


図20 現在のきょうだい数と希望の子どもの数 (p<0.01)

f.行政や政治に対する関心について

自治体に望む取組みを尋ねたところ、図 21 のように「子育て支援」「高齢者支援」「災害対策」といった取組みが上位にあがった。

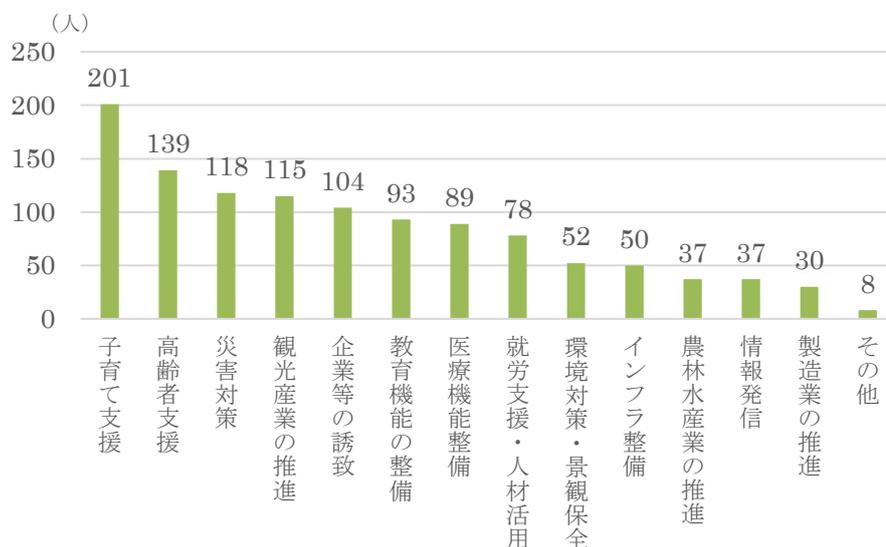


図 21 自治体に望む取組み（最大 3 つまで回答）

また、選挙年齢引き下げ直後であったため選挙についての関心を尋ねたが、その結果は図 22 のようになった。

「必ず行く」が 152 人（35.2%）、「時間があれば行く」が 207 人（47.9%）と積極的な回答が 8 割以上を占めた。

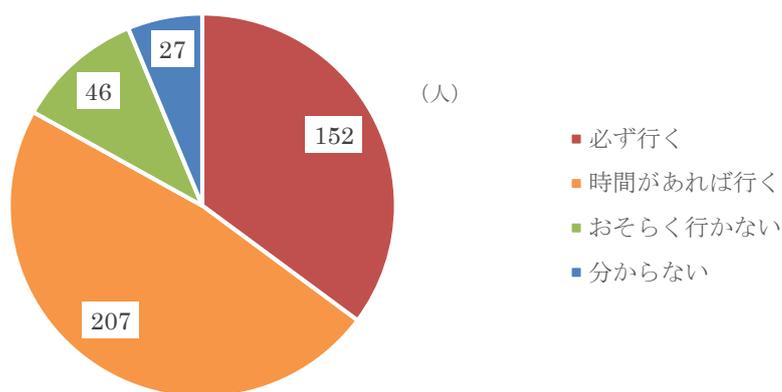


図 22 選挙について

g. テキスト記述の分析について

本調査では、自由記述式の間も出題した。(記述式の間への回答は任意)

その内、「徳島の良いところ」「徳島の悪いところ」についてそれぞれ記述を求めた設問について、テキストに対する簡単なデータマイニングを実施した。本論では、テキスト内で用いられている単語を形態素ごとに分解し、名詞と形容詞についてその使用頻度順に抽出するという方法を用いた。

「徳島の良いところ」

回答数：249 (全 4,232 文字)

結果は表 4 のとおりである。

「自然」「豊か」等の単語の頻度が圧倒的に多く、県内高校生においては徳島の豊かな自然が魅力だと感じている生徒が非常に多いことが分かる。

他には、すだち等の食べ物に関する単語や阿波踊りに関する単語がみられる。

表 4 「徳島の良いところ」で使用頻度の高い単語

Term	Freq
自然	129
豊か	55
多い	37
阿波	36
踊り	30
きれい	28
空気	25
人	24
すだち	14
おいしい	14
食べ物	13
たくさん	13
優しい	13
美味しい	12
やすい	12
緑	11
有名	10

「徳島の悪いところ」

回答数：254（全6,141文字）

結果は表5のとおりである。

「少ない」という単語が非常に多くなっているが、他の使用頻度の高い単語をみると「交通」「汽車」「本数」等、交通に関する記述が多いことから、県内の交通の利便性の悪さに不満をもっている生徒が多いと考えられる。

表5 「徳島の悪いところ」で使用頻度の高い単語

Term	Freq
少ない	117
ない	74
交通	70
悪い	34
汽車	33
田舎	25
多い	25
店	23
不便	23
マナー	22
機関	20
観光	18
人	18
本数	16
便	15
県	15
施設	12
徳島	11
高い	11
バス	10

4 まとめ

ー将来の職業希望についてー

進路の中でも仕事の希望については、「医療関係」や「教育関係」、「公務員」といった職業を希望している生徒が多かった。このことは、働き方として専門職や公務員を希望する生徒が多いことにつながっている。

一方で、仕事の希望について「分からない」と回答する生徒は 18.5%おり、特に男性は約 4 人に 1 人が「分からない」と回答していた。さらに、希望の働き方で「大企業の正社員」「中小企業の正社員」を選択した生徒の中では、希望の仕事が「分からない」と回答した生徒が 3 割を超えており、まだ働く姿について具体的な将来像を描けていない生徒が多いことが窺えた。実際、働きたい具体的な企業名をあげていた生徒はごく僅かであり、県内企業に対する知見があまりないことも後述の県外での定住志向に結びついている可能性が考えられる。県内企業に対する理解度の調査や向上のための取組みが有効ではないかと思われる。

ー定住希望についてー

将来の定住希望については、約半数が現住市町村での定住に前向きな態度を示している。一方で、「近畿地方、中国・四国地方」を中心とした県外や「大都市」や「中枢都市」といった都会での定住を希望する人も約半数おり、多くの生徒が県外へ流出してしまう可能性が改めて示唆された。特に女性は進学を希望する生徒の「近畿地方、中国・四国地方」での定住を希望する傾向が強く、男性以上に若者女性の県外流出抑制のための取組みが求められる結果となった。

大学進学希望地別の定住希望をみると、大学等で県外に出たいと考える生徒で現在の居住地に戻ってきて定住しようと考えている生徒は少なく、県外に出た生徒を U ターン移住者として県内に戻り住んでもらう取組みの難しさが窺える。この点については、実際に県内及び県外の大学等に進学した人に対して調査を実施することでより有用な結果が得られると思われる。

また、在住地域別に定住希望を見た場合、比較的人口が集中している県東地域では、将来的にも定住を希望する傾向が比較的高かったが、県西・県南地域では都会志向が強く県外での定住を希望する生徒が多いという結果になった。

ーテキスト分析の結果についてー

上述の定住希望に関する結果については、「徳島の悪いところ」で交通面の不便さを指摘する生徒が多かったことが影響している可能性が考えられる。高校生で自動車等の移動手段を所有・自ら利用できる人は多くないと考えられるが、そのことが公共交通を中心とした県内交通に対する不満をより強く感じさせたのではないかと思われる。

また、「徳島の良いところ」については、豊かな「自然」についての回答が圧倒的多数で

あった。若者の間で徳島の魅力についての共通認識が存在するという点では望ましい結果となった。ただ、「阿波踊り」や「すだち」という回答もあるものの、全体として「自然」以外の回答が少ない結果だったとも捉えられるため、自然だけでなく多様な魅力を感じてもらえるような徳島をつくっていくことが重要だと考えられる。

ー進路選択で意識することについてー

進路選択で意識することについては、仕事関連以外の選択肢を選んだ生徒は「徳島県」での定住意欲が高いことや、きつい仕事をしてでも高い給料を求めようとは思わない生徒についても同様の結果が出たことは、徳島での定住を望む生徒はそうでない生徒に比べるとワークライフバランスを重視していることの表れではないかと考えられる。

ー将来希望する子どもの数についてー

将来希望する子どもの数については、現在の兄弟姉妹の人数が影響している可能性があり、現在自分が置かれている状況と同様の環境を構築したいと考える傾向がみられた。このことから、子育て支援に関する政策の影響力は、現在の一世帯当たりの子どもの数を増やすのみでなく、将来世代の一世帯あたりの子どもの数にも影響を及ぼすことが推測される。

ー政治への関心についてー

選挙への意欲については、多くの生徒がある程度意欲的な態度であったことから選挙の重要性は認識しているものと思われる。それらを実際の投票に結びつけるために、積極的な主権者教育や学生が投票しやすい仕組み作りが求められる。

ー調査に対する評価ー

本調査ではオンラインで調査を行ったが、調査に要した費用はチラシの印刷費と各高校への郵送費のみとなり、安価で調査を行うことができたと思われる。

しかし、回答自体は容易にできるように設計を行ったが、回答ページにアクセスする手間等から積極的に回答を促していただいた学校以外の回答率は低い結果となった。そのことにより、回答者の居住地や希望する職業の回答結果における偏りが生じた可能性があった。

今回は、オンライン調査を実施した際の回答率を把握しなかったことや県下の高校で一斉に調査を実施したことから、直接高校に赴いてチラシを配布するといったことは行わなかった。しかし、今回の結果から、紙媒体による調査以上に、直接赴き説明することによる回答の促進や回答期間の見直しといった積極的な取り組みが必要であることが分かった

また、自由記述については、6割近い生徒から何かしらの回答が得られた。文字入力や修正が紙媒体のものより行いやすいためだと考えられる。また、集計にあたっての入力作業

が必要ないため、内容整理や分析をスムーズに実施することができた。こうした点は、繰り返し実施することが望ましい意識調査をオンラインで行う大きなメリットとして活かしていくべきである。

(担当：新居)

謝辞

本研究を進めるにあたり、御指導いただいた徳島大学 豊田哲也 教授に感謝申し上げます。

また、調査実施に御協力いただいた県内高等学校及び県教育委員会学校教育課、経営戦略部総務課に感謝申し上げます。

参考文献

石田基広 (2008) 『Rによるテキストマイニング入門』, 森北出版.

酒井隆 (2012) 『図解 アンケート調査と統計解析がわかる本 [新版]』, 日本能率協会マネジメントセンター.

五十嵐敦 (2016) 「高校生のキャリア発達と進路選択についての研究～就業意識と地域生活のとらえ方との関連を中心に～」, 『福島大学総合教育研究センター紀要』, 20, 27-36.

データ出典

「平成27年国勢調査結果」(総務省統計局)

(<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/index.htm>) (平成28年12月2日に利用)

「住民基本台帳人口移動報告」(総務省統計局)

(<http://www.stat.go.jp/data/idou/>) (平成28年12月2日に利用)